

会 議 記 録 (1)

会議名称	第3回北本市第七期障害福祉計画及び第三期障害児福祉計画策定委員会
開会及び閉会日時	令和5年11月20日(月) 午後2時30分から午後3時50分まで
開催場所	北本市文化センター 第4会議室
議長氏名	委員長 高島 恭子
出席委員(者)氏名	高島恭子 鈴木洋行 赤沼幹江 真田牧人 関口暁雄 佐藤慶一 曾根康乃 宮田怜子 柿沼新司
欠席委員(者)氏名	平尾良雄 長岩透 秦舞生
説明者の職氏名	障がい福祉課主幹 松村
事務局職員職氏名	障がい福祉課長 吉見 障がい福祉課主幹 松村
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 北本市第七期障害福祉計画及び第三期障害児福祉計画の素案について</p> <p>(2) その他</p> <p>4 閉会</p>
配布資料	<p>次第</p> <p>北本市第七期障害福祉計画及び第三期障害児福祉計画素案</p> <p>素案差替資料(当日配布)</p>

会 議 記 録 (2)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ 高島委員長よりあいさつ</p> <p>3 議事 北本市第七期障害福祉計画及び第三期障害児福祉計画策定委員会設置規程第6条第1項の規定により、委員長が議長となる。 以降、議事進行</p> <p>会議の公開について（公開承認）</p> <p>(1) 北本市第七期障害福祉計画及び第三期障害児福祉計画の素案について</p>
事務局	<p>(事務局より、資料に基づいて前回会議からの修正事項について説明)</p>
高島委員長	<p>事務局の説明について、意見等はあるか。</p>
関口委員	<p>アンケートの回答者は、70歳代の方が最も多く、次いで50歳代、60歳代となっている。無作為抽出した対象者の方に送付して、回答いただけたのが高齢者の方だったのかもしれないが、アンケートを送付した方のうちどれくらいの方が回答したのか把握する必要があると思う。</p> <p>また、障害者手帳の保有者の年代別の回答率を把握し、その回答を掘り下げていくことは、本当に必要なサービスを知る一つの手段であると考えている。今回はアンケート調査結果の概要であるので、そこまで載せる必要はないかもしれないが、把握をしておく必要はあると思う。</p>
事務局	<p>アンケート調査結果に載せるかどうかは検討するが、年代別の回答率と年代別の回答について把握に努めていく。</p>
高島委員長	<p>回答を掘り下げていくことは必要であると考えている。</p> <p>また、この計画は、アンケート調査結果から利用意向やニーズを勘案した上で、利用実績を参考に障害福祉サービスの必要な量を見込んでいるものである。回答者の年齢を載せることで、この計画を見た方が、例えば、「就労希望者が少ないが、それは回答者が高齢であることも一因であるので、就労系のサービスの充実は必要なことである。」と理解してもらえるとよいと考える。</p>
関口委員	<p>発達障がい者等に対する支援の部分で、埼玉県のパARENTトレーニング等の受講に加えて、親子関係形成支援事業を通じて支援体制の更なる確保に努めていくようだが、もう少し分かりやすいように、文章を変更した方がよいと考える。</p>
高島委員長	<p>ペアレントプログラムのサービス内容について、「子どもや自分自身について行動で把握することで保護者の認知的な枠組みを修正していくことを目的とした支援を行います。」としているが、もう少し分かりやすく、保護者の方が参加してみたいと感じるような表現とした方がよいと考える。</p>

会 議 記 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	お二人にご指摘いただいたとおり、修正する。
関口委員	知的障がいがある方等についても読めるように、表紙や計画の中身のタイトルなどにルビをふっているとのことであるが、この大量の計画の中身についてはどのように理解してもらうか。
事務局	計画の概要を分かりやすくコンパクトにまとめた計画の概要版を用意している。また、自立支援協議会などの機会を捉えて、まず支援者の方々への周知に努めていく。
佐藤委員	アンケートの結果を見ると悩みごとや心配ごとの相談先として「だれにも相談していない」方が多いのが気になっている。 市役所で配布している「障がい福祉のしおり」やホームページも分かりにくいと感じる。
事務局	しおりやホームページが分かりにくいという声は、市民の方からもいただいており、課題として認識している。 しおりやホームページの内容を充実させ、分かりやすいものに修正していく予定である。
真田委員	今回追加した「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築のイメージ」の部分について「害」の字を「障害者の「害」の字をひらがな表記とすることに関する指針」にもとづいて、ひらがなに修正すべきである。 また、用語説明に、地域包括ケアシステムを加えた方がいいと考える。 さらに、用語説明の療育手帳の説明内容で、「障害程度の区分も各自治体によって異なる」という表現だけでは分かりにくいと考える。
高島委員長	療育手帳は、埼玉県においては、○A(最重度)、A(重度)、B(中度)、C(軽度)の4つの区分となるので、その表記を加えたらどうか。
事務局	ご指摘いただいた部分について修正する。
真田委員	地域生活支援事業の見込量の相談支援事業の後ろに鴻巣北本地域自立支援協議会の組織図が掲載されているが、何か意図があるのか。
事務局	相談支援事業の見込量確保のための方策等に自立支援協議会の本会や専門部会等を通じて相談支援体制の充実に努めることが記載されているため、その位置に掲載している。前計画においても、同じ位置に掲載している。
真田委員	この位置ではなく、資料編の方に移した方が分かりやすいのではないか。
佐藤委員	資料編に移して、専門部会等の活動内容も分かるものとしてはどうか。

会 議 記 録 (4)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>それでは、組織図を資料編に移動し、部会等の活動内容についての説明も加えることとする。</p>
曾根委員	<p>用語説明についてだが、資料編の用語説明にのっている用語については、本文に印をつけた方がよいと考える。また、用語説明の方にも関連するページを記載しておくとう分かりやすい。</p>
事務局	<p>曾根委員がおっしゃったように変更する。</p>
赤沼委員	<p>アンケート調査の回答者の約半数が70歳以上ということがやはり気になる。70歳以上の方の中には、障害福祉サービスと介護保険サービスを併用している方が多く、アンケート調査結果に障がいのある方の実情が反映できなくなると考える。</p> <p>今後、アンケート調査の対象者を年齢層で分けるなど、実情が反映できるようなアンケートのやり方を検討すべきであると考えている。</p>
事務局	<p>アンケートの対象者の抽出方法等について、今後検討していきたいと考える。</p> <p>(2) その他</p>
事務局	<p>今後パブリックコメントを令和5年12月21日から令和6年1月19日まで実施予定である。</p> <p>第4回の策定委員会については、令和6年2月を予定している。</p> <p>4 閉会</p>
鈴木副委員長	<p>これにて閉会する。</p>